

令和２年度第２回半田市スポーツ推進審議会議事要旨

開催日時	令和２年１１月９日（月）	１５時００分～１６時４５分
開催場所	市役所４階 庁議室	
会議次第	１．開会 ２．【議題】 （１）市民の体育・スポーツに関するアンケートについて 資料１ （２）第３次半田市スポーツ推進計画（案）について 資料２ ３．閉会	
出席委員 (欠席委員) ※敬称略	（委員長）加藤博吏 （委員）田中益生、富田続、森川瑞代、近藤和昭、岩田洋子、磯貝雅代、村松秀樹、富田康雄、榊原康嗣、清水純一（佐々木秀利）	
事務局	健康子ども部長、スポーツ課長、同課振興担当副主幹、同主事、学校教育課指導主事	
次 第	議事概要	
【議題】（１） 市民の体育・ スポーツに関 するアンケー トについて	（事務局） ・市民の体育・スポーツに関するアンケートについて資料１に基づいて説明した。 ・アンケートを９月～１０月に実施したこと。 ・今回から、紙回答と併せてインターネット回答を実施したこと。 —————（質疑）————— （田中副会長） アンケートの時期は、今回は９月～１０月とのことでしたが、	

前回も同じ時期でしょうか。

(事務局)

前回のアンケートは年明けに実施しており、今回とは時期が異なります。今回は計画を策定するためこの時期に実施したものです。

(田中副会長)

9月、10月ならば既に学校開放等も再開しており、皆さん運動していると思うのですが、低い結果となったのですね。

(事務局)

設問で、「過去1年間で」という聞き方をして回答をいただいているのですが、例えば、3月、4月、5月、6月ぐらいにコロナでスポーツが出来ず、スポーツから離れてしまった方が、もしかしたらイメージとして、スポーツをしていないというような結果に表れた可能性も少しはあるのかもしれないと推測されます。

(事務局)

少し補足します。アンケートの21ページをご覧ください。こちらが過去1年間にどんな運動スポーツをしましたかということで、各種目が書いてあります。例えば、半年前にスケートに行ったというような記憶がある方は、1年間にスポーツをしたとの回答になります。続いて、22ページをご覧ください。1年間でスポーツをした人に対して、どのくらいの日数行いましたかというような形で回答していただいております。今、担当が申し上げましたように、イメージとしては、直近でどうしても回答してしまうのですが、1年間でどんなスポーツをしましたかという問いについては、幅広く種目を設けることによって、期間もきちんと回答をしていただいているのではないかと思います。コロナの影響もありますが、それ以外にも何かスポーツ人口が減少しているという理由はあろうかと思います。

	(加藤会長) ありがとうございました。
【議題】(2) 第3次半田市 スポーツ推進 計画(案)に ついて	(事務局) ・第3次半田市スポーツ推進計画(案)について 資料2に基づいて説明した。 ・成人市民のスポーツ実施率の目標を引き続き65%としたこと。 ・総合型地域スポーツクラブ会員数の目標値を8,000人としたこと。 ・新しい大規模スポーツイベント、スポーツ指導者バンク事業、新総合体育館関連を新たに掲載したこと。 ・休日の中学校部活動のあり方について、今後は段階的にスポーツクラブに移行していくことが予想されること。 (質疑) (近藤委員) 部活動がスポーツクラブに段階的に移行することが予想されるところで、計画には「学校と総合型地域スポーツクラブが連携を図り…」と記載されていますが、行政も一緒にお願いします。 具体的にどのように進めていくのか、それぞれ考えると思うのですが行政のバックアップが必要となりますのでお願いします。 (事務局) 計画に「行政」も追加します。 (村松委員) 学校とスポーツクラブとの共存共栄は重要だと思います。一般市民のスポーツと中高生のスポーツを分けて考える必要があるのではないかと思います。存続が難しくなってきた種目とか、

教員の数が足りない場合などはスポーツ課も絡めてやっていくことが第一歩なのかと思います。決して学校やスポーツクラブが対立してはならないと思います。円滑に進めるためにはどのようにしたら良いのか、毎年の課題であると思っています。今後も審議会で議論を深めていかなければならないと思います。スポーツを続けるためには発表の場も必要であると思います。そういった意味では、はんだシティマラソンは存在価値が高いと思います。今回の計画でハーフマラソンを記載したことは良いと思います。マラソンは、個人でもチームでも参加できる競技ですから充実させた方が良いでしょう。

(富田康雄委員)

計画27ページ下から3行目に記載のある「問題・課題」とはどのようなものですか。

(事務局)

地域指導者、ボランティアの確保が難しく、平日は部活動、土日祝はスポーツクラブ活動となっていたが、教員が土日祝も指導していて実態が変わらなかったことや、会費を集めて活動しているスポーツクラブは、教員の手当並みの謝金を支払うのが難しかったということ。また、中小体連の試合が土日祝に行われることで、土日祝も中学校の部活として活動することがあった。土日祝の活動に実態が変わらないにもかかわらず、スポーツクラブの会費を払わなければいけないことで、教員や保護者からの理解を得ることが難しかったということが課題としてあります。

(富田康雄委員)

子どもたちに部活動させたい、他のクラブに入れてでも活動させたいという保護者もいれば、楽しくこのメンバーで3年間活動が出来れば良いというものもあります。同じ部活動の中でも意識の差がでたりします。活動したい子どもたちの最終的な受

け皿として、スポーツクラブと連携して、目標が作れる場所があっても良いと思います。そうすると、中学校の部活動とスポーツクラブで連携を取りながら上手にすみ分けができるのかなと思っております。今後、スポーツクラブに移行していくこととなったときに、中学生などの活動の場所を広げていくと、一般の方の活動の場を取っていかないかなと心配しております。地元の大学生を指導者として迎え入れるには、アルバイトの代わりとして手当があれば、人手が集まって来るのではないかと感じております。

(加藤会長)

各スポーツクラブ選出委員の皆様にご意見を伺いたいと思います。ご質問や現状などをお話してください。

(富田統委員)

10ページの総合型クラブ会員数の目標が8,000人ということですが、かなり現実的な目標なのかなって感じます。人口が10年間で減っていくのだろうとの見込みによる目標だと思いますが。市の方針として、中学生の土日の部活動が、スポーツクラブが主体的やるということであれば、もう少しこの数字を増やしても良いのでは。10年後の目標値なので、なかなか読めないとは思いますが。国も令和5年ぐらいから、地域に土日の部活動は移行していくとの方針だと思いますので、努力できる目標値に設定していただけるとこちらもやりがいがあるのかなと思います。

(森川瑞代)

2～3年前に中学校は青山スポーツクラブから撤退しています。

(岩田委員)

部活動など子供たちが何かに打ち込めることがあるのは良いことだと思いますし、部活動がエネルギーの持って行き場にも

なると思います。子どもたちに何かをやりたいと思わせることが大人の使命だと思います。コロナで部活動の時間が削減され、これでは子供たちが可哀そうだし、やらせたいとの想いで保護者が動き、スポーツクラブの会員となり、経験者の保護者が指導者となって活動を始めたという事例があります。一人でもやりたいという子がいるのなら、その環境を作っていかなければならないと思います。人とコミュニケーションをとることは大事で、大学生が子どもと接することも良いことだと思いますし、中学生が職場体験をすることも良いと思います。そのようなことを踏まえて、地域、学校、行政が連携していかなければならないと思います。そして、住みやすい街ランキングなどに繋がれば良いのかなとも思っています。

(榊原委員)

親同士が集まると、成績とか受験の話が半分、部活の話が半分、そのぐらい親にとって部活は大事なものだと感じています。部活動は、教育としての意味と、岩田委員の発言でもありましたが、エネルギーの持って行き場としての意味の2点あると思います。子供がコロナウイルスの関係で部活が減り、家で何をするかというゲームやったりすることが多くなった。部活があるときは、親から見ても子どもが充実していることが分かって、良い過ごし方をしていた感じがしました。出来ることならば、部活の機会は減らしてほしくないと思います。教育の部分では、部活というのは公式のクラブチームとかとは別で、もう少し浅く広く、どんな子でもできるような機会という意義があると思っています。また、部活動はエネルギーの持って行き場であると思います。市民にスポーツのできる基礎を作るといような意味もあると思うので、楽しくやれる今までの部活のようなスポーツをやる機会を残してほしいと思います。親の希望としては、部活の中で教育というものを学んでいただきたい

い。例えば、上下関係や先輩との接し方など。社会人になっても必要なことを経験することが出来ます。また、みんなで一緒にのことに取り組むことで、感動することや苦しいことも経験できると思います。自分自身、教育の中ですごく良い経験が出来たので、ぜひそんな機会を子供たちから減らさないでほしいというのが希望です。PTAをやっていると、先生がいかに大変か見えてきます。PTAの会議に行った時に夜も残っていて大変だなと感じました。先ほど近藤委員の発言でもありましたが、行政に入っていただいくしかないのですかね。ある程度お金をかけてでも、実りのある部分であると親世代として考えていますのでよろしくお願いいたします。

(清水委員)

アンケート結果をみると、今までの活動が間違っていなかったのだと思いました。スポーツ指導者問題や学校の問題、スポーツクラブ自体の受皿の問題とか様々な問題があり難しいことだなと感じ、整理していかなければならないと思いました。老人にも同じようなことが言えると思います。老人も人に迷惑かけないためにかなりの距離を歩きます。また、ラジオ体操にもかなりの参加率があります。やはり子供たちのスポーツとはまた違う面であると認識しております。ただ難しいのは、音頭をとる人たちが、老人の中でも少ないです。たくさん経験されてきているのですから、音頭や指導をする仲間がたくさんいてもいいはずなのですが。それをボランティアで確保することは非常に難しいと思います。

(磯貝委員)

部活動の問題に関しては、長男がソシオ成岩スポーツクラブに入っていました。それからかなり年数が経っていますが、部活動とスポーツクラブの兼ね合いが難しいのだと思い聞いていました。子供たちの運動経験が基礎となり、成人してからの運

動習慣に繋がると思います。先ほど榊原委員の発言にもありましたが、広く、浅く部活動に参加できるようにすることも必要だと感じます。勝利至上主義みたいになると、続けられない子もいると思います。体を動かすことを楽しむというようなことを増やしていけると良いのかなと感じています。半田市健康づくり連絡協議会は、中高年を中心に50団体あったのですが、コロナの影響で8団体退会しました。高齢者なので、会場が使用できないのは仕方がないことですが、感染をすごく恐れて活動を控えてしまう。それが雪だるま式にバタバタと会をやめるきっかけづくりになってしまいました。70代80代の方たちが、運動習慣を何十年と続けてきても辞めてしまう。そうになると会を復活させることは難しいことだと深刻に考えています。健康長寿を目指すためには運動が欠かせないのですが、辞めた人たちの掘り起こしも難しい。また、指導者も高齢化しているので。行政でも、頑張ってくれているのですが、なかなか難しい状況です。指導者の問題というのは、年代に関係なく考えていく必要があるのだということを改めて思いました。

(事務局)

スポーツクラブ会員数の目標値の件ですが、8,000人を第3次計画の目標値としまして、中間年度に必要な応じて計画の見直しをすることを考えています。その時に移行がスムーズにできていれば、目標値も見直すことを考えています。先ほどの説明で、休日の中学校部活動がスポーツクラブへ段階的に移行していくと言いましたが、文科省は地域にという言い方をしています。本市においては、過去のスポーツクラブと部活動の問題とかもございまして、全ての休日の中学校部活動がスポーツクラブに移行するのか。あるいは、地域の民間クラブに行くのか等なかなか難しい部分があります。そのため、目標値を8,000人と設定しました。

閉会	(事務局) 次回は11月19日の木曜日、午後3時から本日と同じ庁議室で開催します。 (田中副会長) きっかけがあればスポーツをやりたいという方が多いという説明をいただきました。アンケート結果、あるいは皆さんの一人一人の意見が大きなきっかけになるかと思いますので、今後ともよろしくお願いします。本日はありがとうございました。
	16 : 45 (終了)